

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に必ず声出しにてスローガン、理念を共有している。	毎週月曜日、隣接の老人保健施設で開かれる朝礼にホーム1階の早番が参加し、法人全体の「わたし達の決意」と「法人の理念」を復唱している。ホーム独自の「スローガン」と「基本理念」はリビングに掲示され、毎朝の申し送り時に復唱し、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアさんが来所し、共に歌などを楽しんでいる。又、大きな行事には地域にチラシを配布し参加を呼びかけている。	歌、紙芝居、体操、アロマセラピー、ハーモニカなどのボランティアが来訪している。隣接の老人保健施設での茶道教室にも数名が参加している。ハロウィンには保育園児が来訪し仮装して歌を披露してくれたり、地区の秋祭りでは常会の神輿を玄関先で披露してくれるなど、様々な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や老健主催の会などで、認知症の理解や困ったことへの相談など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者も推進会議に参加し、生の声を聞いて頂いたり、又、行事や事故など様々な報告の中でそれぞれの立場で意見を頂いている。	利用者数名、家族代表、地域代表、民生委員、あんしん相談員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、ホーム担当者により2ヶ月に1回開かれ、ホームの現状報告などを行い、防災・水害対策の説明や夏祭りへの参加依頼など、活発に意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課職員、包括、あんしん相談員、民生委員、地域代表の方々に現状等々伝え、意見を頂いている。	市から委託を受けた地域包括支援センターが法人内に設置されていることで何時でも相談できる体制にあり、密に連絡を取り合っている。市から派遣のあんしん相談員も毎月来訪され、利用者の意見を聞いていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束しないケアを学び、日頃の業務では職員が情報を共有し、策を皆で話し合っている。	「身体拘束」については年1回法人全体での研修が行われており、参加出来なかった職員には全員参加で開くホームの職員会議で周知徹底し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、何が虐待とみなされるのか、日常業務の中で職員と話し、考える機会を設けている。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度の全体会議で議題とし、学ぶ場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームからのお便りや、電話連絡等で家族とのコミュニケーションを多くとるように心がけ、会話の中で、家族の気持ちをくみ取り対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに来て頂く機会(行事など)を複数回設け顔なじみなり、話しやすい環境づくりをしている。	毎月の請求書と担当職員が1ヶ月分の生活記録とコメントを添えた写真入りのお便りを郵送し、利用者やホームの日頃の様子をお知らせすることで意思疎通を図るようにしている。夏祭りと新年会が家族会も兼ねて開催されており、その場での意見交換を行っている。家族の面会時には声掛けし意見や要望を聞いたり、遠方のご家族には月1回報告も兼ね電話で意見等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体会議を開き、職員からの意見や提案、又、ケアについて皆で話し合いをしている。	月1回全員参加で開かれる会議で職員の意見を聞いている。また、年2回行っている人事考課の自己評価の後、管理者と面談し、管理者が評価し法人に報告する仕組みとなっており、個々の意見や提案をホームの運営やケアの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価がある。勤務状況、今後の課題等、代表者に伝えることが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務経験年数に応じ、内外の研修に参加しその内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区ネットワークに加入している。研修会や交流会に参加している。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時より入所中も本人の気持ちを把握しながら満足して頂けるサービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時よりホームに来て頂ける機会を設けたり、生活記録送付により家族との関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、本人や家族が望んでいる事を聞き、話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活して行く中で、出来ることを見極め、共に食事作りなど食事作りなど、家事全般を共に行ない、多くは職員が学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちも大事にしながら、本人や職員と関わりをもって信頼関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話等協力し支援している。来訪者とは居室で話してもらい、又、外出希望があれば実現している。	知人や友人あての手紙を希望されれば郵便局に同行したり、アドレス帳をお持ちの利用者が電話をかけたいとの要望があれば個々に支援している。友人や昔お世話になった知人の来訪を受ける利用者もあり、ホーム利用前からの馴染みの関係が継続出来るように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごして頂けるように、席の配置や入浴の順番、家事等工夫している。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もどのようにお過ごしなのか、電話で聞いたり、行事参加を呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話をする中で、どんな事を望んでいるのか本人の気持ちを、把握し実現できるよう努めている。	日々のかかわりの中での「つぶやき」などを大切に記録し職員間で周知し、希望に沿えるように支援している。言葉で表わすことが難しい利用者には表情から汲み取り、見逃さないよう日々の観察を大切に心掛け、本人の思いを叶えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所事前に情報収集し、会議の時に職員全体で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを大切に、日々の体調を申し送り、朝礼・終礼で職員全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、本人、家族、医師等の意見や希望を聞きながら本人の現状に合った計画を立てている。	職員一人が利用者一人を担当しており、全職員参加の月1回のセクション会議やカンファレンスで担当者が中心となり話し合い3ヶ月毎に見直しをしている。「出来ること・出来ないことシート」も作成されており、プランの見直しに反映している。状態の変化により、随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間を追った記録をし、ケアプランのケア内容、発語、表情なども記録し、申し送り朝礼・終礼にて情報共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理学療法士、栄養士、老健相談員等に意見をもらい取り組んでいる。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や各家庭での行事に参加したり、散歩がてら近所の公園に出かけたり、田畑を見て回るなどし、地域住民との会話も楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、病院選択、付き添いに努めている。主治医に紹介状を書いてもらい、病院を受診する。	利用契約時に説明し希望をお聞きしているが、法人のクリニックを希望される方がほとんどで、一月1回、往診していただいている。クリニックの専門科目以外の受診が必要な時には家族に付き添いをお願いしている。法人内の訪問看護師が週1回来訪しており、医師へ状態を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅管理指導を元に利用者の状態を把握し、クリニック、訪問看護、薬剤師に伝達し個々の利用者にとって適切な受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設のクリニックや訪問看護と情報の共有し相談できる体制作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の希望や意思を尊重している。状態によってはその都度、家族と話し合いを持ちながらホームで出来ることを説明したり、提案をしている。	「看取り介護の同意書(看取り介護の指針)」が作成されており、契約時に説明し同意を得ているが、状態に変化が生じた時にはその都度指針を基に家族や医師、管理者との話し合いを持ち、希望を再度お聞きし、その時点での同意もいただいている。急変した時には家族に相談し、昼間はクリニックと、休日・夜間は24時間体制の訪問看護と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老健にて内部研修で学んでいるがホーム独自でも会議時、職員皆で学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上、防災訓練(昼・夜間想定)実施。又運営推進会議にて話し合いを設けている。	年2回、昼間と夜間想定訓練を1回ずつ行っている。通報訓練と消火訓練が消防署立会いの下で行われたり、消防訓練計画書を提出し自主的に実施されたりしている。夜間は夜勤者2名の体制であるが隣接の老人保健施設には各部署毎に夜勤者がおり10人の協力体制がある。運営推進会議でも災害時の体制を説明している。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護に関わる対応時は、必ず分かりやすく丁寧な敬語で言葉がけしている。押し付けや命令にならないよう尊厳を大事にしている。	利用者のペースを尊重している。居室への入室もノックをし返答があったら入るなど、個々のプライバシー保護に取り組んでいる。打ち解けた雰囲気の時でも馴れ馴れしい呼び方はせず、言葉がけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境作りに努め、又、職員側からの声かけを多くし、気づきが出来ないようにしたり、希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課、一日の流れは大まかに決まっているが利用者の気持ちを大事にし、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声かけをしたり、又、職員よりの提案で身だしなみやおしゃれが出来ている。定期でヘアカットが来たり買い物に出かけ、衣類や化粧品も購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関すること全般、出来ることを見極めて職員と一緒に関わっているおやき作りは、利用者に教えてもらうことが多い。	食事については殆どの利用者が自立しており、楽しみとしている。メニューは老人保健施設の管理栄養士が立てたものを基本にしている。誕生日にはサプライズで外食や外出などの希望に応じている。ホームの畑で夏野菜などをつくり収穫を楽しみ、食卓に上げている。配膳や下膳、食器拭きなど、利用者は一人ひとりの力量に応じて行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立にて、バランスの良い食事が提供できている。牛乳やお茶など好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない口腔内の状態、義歯の状態を把握し、清潔に保てるように支援している。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗のない排泄として、利用者の様子や時間でトイレ誘導をしている。なるべくリハビリパンツは使用せず布パンツで対応している。	8割の方が布パンツで、パットを使っている方もいる。殆どの方が自立しており、尿意のない方のみ誘導表を作成し、手引きなどによりトイレでの排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を把握し、水分補給や体操をしている。又、医師に相談し下剤の処方、看護師により浣腸を場合によっては実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、希望があれば他の階での入浴が可能となっている時間帯は、声がけにて希望に添っている。浴槽が大きい為、複数で入り唄ったり会話したりして入浴を楽しんでいる。	基本的には1階が月曜日と木曜日、2階が火曜日と金曜日の週2回の入浴としている。ユニット毎に入浴の曜日を変えているため希望により2回以上の入浴も可能である。浴室は3人の方が入れるほど広く、利用者同士楽しく入浴している。菖蒲湯やゆず湯、汗疹にいい桃の葉湯など季節感も大切にしている。日曜日には老人保健施設の大浴場を借り温泉気分を味わうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息をとってもらい、体調などに合わせ寝具の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員間で共有、確認し、体調管理をしている。体調不良や内服薬が変更になるなどの時は必ず申し送り、朝礼・終礼で報告・確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中から、くみ取ったり聞いたりしながら、達成感、満足感を持ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は家族と相談しながら実現できるよう努めている。ホームでは天気の良い日は、ほぼ毎日戸外に出て散歩したり、体操したりしている。行きたい所を聞いたり、年間で遠出の計画も出来ている。	気候と体調に配慮し散歩をしている。散歩の帰りに理事長宅1階に4月から11月まで開かれる「プチカフェ コスモス」に立ち寄りコーヒーを飲んだり、隣接の老人保健施設1階のロビーに設置されている自動販売機で好きな飲料を飲むことを楽しみの一つとしている。また、年間のレクリエーション企画で4月のお花見から11月の紅葉狩りまで天候に合わせて外出し楽しんでいる。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	共に買い物に出かけたり、外食に行ったりしている。希望で職員が購入してくることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添った対応をしている。家族と話し合い、はがきや切手の購入、電話をかけたり、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度に注意し、過ごしやすい室温にしている。季節に添った飾りつけや、外出時の写真を貼るなどしている。	日中の殆どを過ごしているリビングは広々としており、各行事の記念写真や手作りの作品などが飾られている。浴室は3人の方が一緒に入浴できるほど広く、洗い場と脱衣所は床暖となっており、温かくお風呂を楽しむことができる。3ヶ所のトイレもゆったりとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が思い思いに過ごしている。特に工夫はしていないが孤立しがちな方への配慮はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を設置し相談しながら居室の工夫をしている。	ベットと筆筒はホームで用意されているが、居室にさまざまな馴染みの物を持ちこんだり飾り、居心地良く暮らせるように工夫がされている。転倒の危険が予測される方にはベットでなく布団を敷くなど、安心して過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者、職員皆で出来ること分かることを活かしながら、利用者同士の思いやりを大切にして、安全な自立支援に努めている。		